

第6次高浜市総合計画推進会議（第1回） 会議録			
日 時	平成27年3月27日（金）午後7時00分～8時45分		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	0名
出席者	委 員	中川幾郎、井野代司彦、岩月義成、酒井康満、清水恵子、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏 (12名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 総合政策グループ リーダー 木村忠好 同 主 幹 鈴木明美 同 主 査 山本久美 同 主 査 榊原雅彦 同 主 事 稲垣翔太 同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀 (8名出席)	
次 第	1 市長あいさつ 2 辞令交付 3 自己紹介 4 議題 1) 会長・副会長の選出について 2) 会議及び会議録の公開について 3) 第6次高浜市総合計画推進会議の役割について 4) 推進会議の今後の進め方について 5) 高浜市における今後の人口動向について 6) 中期基本計画 目標達成に向けた取組み実績について 7) 「市民意識調査」及び「小・中学生アンケート」の実施について 5 その他		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議委員 名簿 資料2：第6次高浜市総合計画推進会議設置規則 資料3：第6次高浜市総合計画推進会議 会議及び会議録の公開について（案） 資料4：第6次高浜市総合計画 中期基本計画 進行管理体制（案） 資料5：第6次高浜市総合計画推進会議 スケジュール（イメージ） 資料6：高浜市における今後の人口動向について 資料7：中期基本計画 目標達成に向けた平成26年度の主な取組み 資料8：平成27年度「市民意識調査」「小・中学生アンケート」の実施について（案）		

1. 市長あいさつ

年度末のお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

中期はすでに始まっており、本来であれば27年度のアクションプランに資する会議でなければならなかった。中期の1年目、後期の1年目は実質半年で評価をしなければならない。本来であれば27年度の予算組みの前に開催するべきであったが、“半年でどう評価するのだ”ということにもなってしまう。その点は今後の反省点であり、やり方にも工夫がいる。

中川先生には総合計画の策定の時から関わっていただき、進行管理においてもご参加いただいている。先生を中心に会議を進めていただき、皆さんの目から見て、総合計画がきちんと進んでいるのか、滞っていることがあればどうすれば良いのかといったこと、併せて運営方法等も含めてご意見をいただきたい。

2. 辞令交付

市長より各委員へ辞令交付

3. 自己紹介

委員・事務局による自己紹介

4. 議題

1) 会長・副会長の選出について

委員の互選により、以下のとおり決定した。

会 長：中川幾郎委員

副会長：酒井康満委員

【中川幾郎会長あいさつ】

・改めて身の引き締まる思いがしている。皆さんと協力しながら進めていきたい。

2) 会議及び会議録の公開について

事務局より、資料3「第6次高浜市総合計画推進会議 会議及び会議録の公開について（案）」に基づき説明

—原案どおり承認される—

3) 第6次高浜市総合計画推進会議の役割について

4) 推進会議の今後の進め方について

会 長： ・議題3と議題4については関連があるため、併せて事務局より説明をお願いしたい。

行 政： （資料4「第6次高浜市総合計画 中期基本計画 進行管理体制（案）」及び資料5「第6次高浜市総合計画推進会議 スケジュール（イメージ）」に基づき説明）

- ・「総合計画推進会議」は、総合計画の進行管理に関すること、推進に関する
ことについて市長へ意見を述べる組織である。
- ・行政では、中期基本計画に掲げた目標の達成状況について、様々な観点から
点検・確認する「施策の内部評価」を今後実施していく。
- ・委員の皆様役割としては、内部評価の内容をご覧いただき、目標の達成に
向けてご意見をいただくことが最も大きな部分である。
- ・次回の推進会議において、点検・確認の具体的な進め方を皆様にお示しして
いく。
- ・第3回・第4回推進会議で行政の内部評価について発表をするので、皆様か
らご意見を頂戴したい。
- ・その後、第5回の推進会議で、皆様からいただいた意見を「点検・確認結果」
として取りまとめ、市長へ提出していただく。

会 長： ・こういった評価をすることが初めてという委員もおられる。ご意見・ご質問
があったらお願いしたい。
(意見・質問等なし)

5) 高浜市における今後の人口動向について

行 政： (資料6「中期基本計画 目標達成に向けた取組み実績について」に基づき説
明)

- ・今後、中期基本計画に掲げた取組みに対してご意見をいただいでいく上、そ
して施策を考えていく上で、人口というものは基本的な指標となるため、本
日は人口という観点から市が置かれている状況をお示しする。
- ・当市の人口は今後も増加していく予測だが、老年人口が圧倒的に増えること
による増で、若年人口は年々減少、生産年齢人口は平成42年をピークに減
少に転じる。
- ・平成20年頃までは転入が転出を大きく上回っていたが、リーマンショック
を機に転入と転出の差が縮まり、人口の伸びも緩やかになっている。
- ・年齢別の人口移動の動向を見ると、20代の若い世代の転入が多くなってい
る。
- ・平成26年の1年間だけを見ると、20～24歳の転入が多くなっているが、
25～29歳の日本人の転出が多いことが分かる。

会 長： ・ただいま事務局からご説明いただいたが、ご意見・ご質問があったらお願い
したい。

委 員： ・転出するおおよその理由は把握しているか。

行 政： ・人口が急激に増えていた時期は、他県から刈谷・安城に転入し、その後住宅
を求めて高浜へ転入してくる動きがあったが、最近では刈谷への転出が増えて
いる。最近の人口の動きは以前と大きく変わってきており、転出の理由は明
確には把握できていないため分析を要する。

- 委員：・昼間人口のデータは取れるか。
- 行政：・数字でいうと、昼間は他市へ出ていく人数が入ってくる人数を上回っており、ベッドタウン化している傾向にあると言える。
- 委員：・結果だけではなく、やはり原因を追究することに意味がある。そうしないとせつかくのデータも意味のないものになってしまう。
- 委員：・25～29歳の若い世代の転出が多いとあったが、既婚者・未婚者の転出割合のデータがあると、子育て支援サービスの向上につながるのではないかと。うれしいことに、他市に転出した人から「高浜の子育て支援は本当に充実している」という声はよく聞くが、サービス面が不十分で転出しているとなると、そこは見直さなくてはいけない。
- 行政：・既婚者・未婚者の転出割合のデータについては、抽出をしていきたいと考えている。
- 委員：・昭和50年代に人口が減った時期があり、当時は転出証明を取りに来た方に、転出の理由を聞いた経緯がある。結局のところ、転出の理由については直接市民から聞かないと分からないため、今後は差し支えない程度に聞き取りをしていく。近いうちには“転出の理由はこうだ”というものがお示しできる。
- 委員：・25～29歳が多く転出しているということは、働く環境がないということが言えるかもしれない。
- 委員：・大いに関係していると思われる。
- 委員：・また、20～24歳の転入が多いのも理解が難しい。
- 行政：・おそらく、トヨタ系の期間工などが多く寮に入ることが要因ではないかと思われる。
- 会長：・これらのデータ結果の理由はやはり調査する必要がある。
・資料にあるグラフのそれぞれの単位は何か。
- 事務局：・2) 年齢構成割合の動向を除き、全て“人”である。
- 会長：・市の全体人口に占める転入・転出の社会増減の比率をお教えいただきたい。それを見るとどれだけ定住定着人口があるのか、移動型の人口がどれだけあるのかや、ベッドタウン化しているのかなどが見て取れる。
・総人口から見て、移動の状況は数字的にもあまり大きな、びっくりするようなものではない。社会増減があまりない自治体と言えるかもしれない。
・私が住んでいるまちはベッドタウンの典型で、10年経過したら人口の1／3が入れ替わるというまちである。移動型住民が1／3を占めているということ。そういうまちなので自治が育たない。

6) 中期基本計画 目標達成に向けた取組み実績について

- 行政：（資料7「中期基本計画 目標達成に向けた平成26年度の主な取組み」に基づき説明）
・今回は点検をしていただくということではなく、中期基本計画の目標達成に

向け、行政が今年度行った取組みを紹介するものである。

- 会 長： ・ただいまご説明いただいた点は、まず中期基本計画冊子の9ページに、4つの基本目標について細かく記載されている。また、冊子の18～21ページには、基本目標の下にある11の目標とそれぞれの「こんなことに取り組みます！」がまとめられている。
- ・あくまでもご報告ということであるが、ご意見・ご質問があればお願いしたい。
- 委 員： ・目標（5）にある“市ポータルサイト”とはどういったものか。
- 委 員： ・市のホームページとは別で、子育て関係の情報が閲覧できるサイトである。
- 委 員： ・「何を・どうした」に対する結果については、今後指し示していただけるのか。
- 行 政： ・結果については、第3回・第4回推進会議において、担当のGLより説明させていただきます。

7)「市民意識調査」及び「小・中学生アンケート」の実施について

- 行 政： （資料8『平成27年度「市民意識調査」「小・中学生アンケート」の実施について（案）』に基づき説明）
- ・調査票については現在最終調整中のためお示しできないが、今回はあくまでもこちらの資料に基づき実施する旨のアナウンスということでご了承いただきたい。
- 会 長： ・ただいま事務局からご説明いただいたが、ご意見・ご質問があったらお願いしたい。
- （意見・質問等なし）

5. その他

- 会 長： ・以上、本日の議題は全て終了したが、時間もあるので委員の皆様から一言ずつ、感想でもどんなことでも結構なのでご発言をいただきたい。
- 委 員： ・（さわたり夢広場開園10周年記念イベントのPR）
- 委 員： ・資料を見て“いよいよ始まったな”と実感した。
- 委 員： ・イベントにならないよう、皆さんとともに推進していきたい。
- 委 員： ・自分の行っていることを文章にするとこんなにも難しいのかと感じた。これからは勉強しながら頑張っていきたい。
- 委 員： ・委員同士の交流会の機会もぜひ作ってほしい。
- ・冒頭に告知のあった「タカハマ物語」について、映画を作ることが目的ではなく、子ども若者の成長を応援することに目的がある。皆様にもご協力・ご支援をお願いしたい。
- 委 員： ・委員の顔ぶれも新しくなったため、気を引き締めて一から取り組んでいきたい。

- 委員：・26年度の取組み紹介において、“関わったことのある取組みが、総合計画のここに位置付けられていたのか”ということが分かった。取組みの結果報告を楽しみにしたい。
- 委員：・市役所の方が外を歩いているのをよく見かけ、事務だけでなく体を使っていることに感謝している。取組みを通じて高浜がより住み良いまちになると良い。
- 委員：・この会を通じて、さらに市の進める施策についての内容を深めていけると良いと感じた。
- 委員：・どういった指標で評価を進めていくかといったことがまだ見えてこないが、事務局にお聞きしながら理解を深めていきたい。
- 委員：・以前委員として関わった行政評価の時よりも、中身が進歩していると感じた。
- 委員：・27年度の当初予算を、“厳しい将来に向かっていくための予算”と位置付けてきた中で、市民から「あまり厳しいと言いつぎるな」といったご意見も頂戴した。
- 委員：・来年度、当市は普通交付税の不交付団体になる可能性が大となっている。全国で1,700以上ある自治体のうち、不交付団体はわずか70ほどである。つまり、高浜は全国ベスト70の財政力があるとされているということである。
- 委員：・冒頭にも申し上げたとおり、市民に大きな課題をお示しし、意見をいただきながら進めていきたいと考えている。
- 委員：・防災の取組みについて、子ども防災リーダー養成事業を展開している旨を皆様にご承知おきいただきたい。県知事を訪問し、県全体で取り組んでいってはどうかとの打診もさせていただいた。
- 会長：・先日、神戸市長を交えて「参画と協働」というテーマでシンポジウムを開催した。そこで分かったことは、組織が相互にお互いを助け合うことを必要としているということ。都市型社会は皆孤立無援となっている。予算額や職員数から見ても、全国の自治体がものすごい勢いで縮小している。
- 会長：・その中でなぜ「参画と協働」が必要なのか。地域が崩壊する、住民の自治力が崩壊する、まちへの愛着が少ない市民の比率が高いまちは、相対的に行政コストにばかり返ってくる、犯罪発生件数も高くなる、放火・失火も増える。そういった相関関係がはっきりとデータで出ている。
- 会長：・あいさつをし合う習慣があるか、地域活動やNPO活動に関わる市民がどれだけいるか、皆が参加できる面白いイベントがあるかといった項目で、150近くある学区ごとにアンケートを取ったところ、これらのアンケートの数値が高いところは、防災力・防犯力が高いし、子どもの学力も高いという結果が出た。
- 会長：・そういう話をする時にいつも紹介するのは高浜の話。5万弱の人口で、本当にこのまちが大事だと思っている市民の比率がものすごく高い。その手法は

何にあるかという、総合計画にある。総合計画を評価する市民、総合計画に掲げた活動指針を行政が必死になって実現しようとしている。そのことによって都市力が上がっている。大都市になればなるほど行政力は劣っているという逆の現象が起こっている。

- ・先般、吉野町で自治基本条例ができた際、高浜に視察に行くよう言った。視察に行った人は非常に感心して帰ってきた。「行政の仕組みが分かりやすかった。まち協の活動内容も目を見張るばかりだった。」と言っていた。
- ・総合計画ができたことによって、行政の仕組みが市民に分かりやすく・見えやすく可視化できた、そういった効果があったと思われる。ただ、取組みに対する結果は必要である。アウトプットデータで止めてはダメで、アウトカムデータを出せる時期になったら出しましょうという話。ただし、すぐには効果は出ない。例えば、“部長マニフェストを出したら、住民からこんな反応が返ってきた”みたいなデータでも構わないので、またご報告いただきたい。そういう点では、高浜は日本のモデルになりつつあると思っている。

- 行政：・今後の推進会議の日程について、第2回～第5回の日程をあらかじめ決めておきたい。時間はいずれも午後7時開始で、
- ・第2回を5月12日（火）、第3回・第4回を7月24日（金）・28日（火）・29日（水）・8月4日（火）・5日（水）のいずれか2日、第5回を8月25日（火）で開催したい。

（調整の結果、下記のとおり決定）

第2回：5月12日（火）午後6時～

第3回：7月29日（水）午後7時～

第4回：8月 5日（水）午後7時～【2委員欠席】

第5回：8月25日（火）午後7時～

（第3回推進会議で基本目標Ⅲ・Ⅳの発表、第4回で基本目標Ⅰ・Ⅱの発表を行うこととする。）

- 行政：・点検・確認作業が初めての委員を対象に、推進会議とは別に今後の進め方についての勉強会を開催したいと考えているのでご了承いただきたい。

- 行政：・最後に、委員も新しく変わったので、記念撮影を行いたい。

（委員、市長、写真撮影）

（撮影後、解散）

